

導入時心機能低下が腹膜透析患者の導入後予後に与える影響の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、腹膜透析（PD）を開始される患者さんの心機能の状態と、その後の経過について調査を行っています。一般的に、透析開始時の心機能低下は予後に影響すると言われていますが、腹膜透析患者さんにおける詳細はまだ十分にわかっていません。

本研究では、導入時の心機能や内服している心保護薬が、その後の生活や生存率にどのような影響を与えるかを明らかにすることで、将来の患者さんにより最適な治療選択や管理方法を提供することを目指しています。

◆対象となる患者さん◆

2009年9月1日から2024年12月31日までの間に、当院で腹膜透析（PD）を導入された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

電子カルテに記録されている以下の情報を使用します。

基本情報：年齢、性別、導入原因疾患、既往歴（心疾患、糖尿病など）

検査データ：血液検査（アルブミン、CRP、BNP、ヘモグロビン等）、尿量、腹膜平衡試験（PET）の結果

生理学的検査：心エコー検査結果（LVEF、E/e'等）、胸部レントゲン（心胸郭比）

治療内容：内服薬（心保護薬など）、透析の形式

経過：生存状況、心不全による入院の有無、血液透析への移行の有無

◆試料・情報の研究利用開始日◆

倫理委員会承認日（2026年4月28日）以降

◆研究方法◆

本研究は、過去の診療記録（電子カルテデータ）を振り返って解析する「後ろ向き観察研究」です。通常の診療で得られた情報を統計的に解析するものであり、研究のために新たな検査や費用の負担が生じることはありません。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
腎臓内科 研究責任者 福岡 晃輔

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明